

平成28年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	鹿児島県教育委員会
-------	-----------

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※I型、II型、III型のいずれかに○を付してください。

<input type="checkbox"/>	I型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
<input checked="" type="checkbox"/>	II型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
<input type="checkbox"/>	III型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
鹿児島県	特別支援学校	知的障害	かごしまけんりつかごしまこうとうとくべつしえんがっこう 鹿児島県立鹿児島高等特別支援学校

2 研究課題

特別支援学校高等部生徒の職業自立に向けた能力の向上と、特別支援学校のセンター的機能の活用や労働・福祉等機関との連携によるキャリア教育・就労支援の充実に関する研究

3 研究の概要

(1) モデル校への就労支援コーディネーターの配置

- モデル校となる特別支援学校に、就労支援コーディネーターを配置し、企業に対して障害者雇用に係る理解啓発を図りながら、現場実習先や就労先の開拓業務を行うことにより、高い就職率の実現を目指してきた。また、県内各地域で得た地元企業に関する情報を他の特別支援学校にも提供することで、本県特別支援学校全体の職業教育の充実を図った。
- 1日6時間、年間240日勤務

(2) 特別支援学校技能検定の実施

- 特別支援学校高等部の生徒を対象とした特別支援学校技能検定を、昨年度に引き続き、特別支援学校及び企業関係者と連携して実施し、生徒の職業自立に向けた意欲や能力の向上を図るとともに、企業関係者の特別支援学校生徒への理解を深めることで、雇用促進につなげた。
- 特別支援学校技能検定検討委員会及び専門部会の開催（年5回）
- 特別支援学校技能検定（清掃部門）講習会の開催（年1回）
- 特別支援学校技能検定の実施（年2回）

(3) 特別支援学校就労ネットワーク会議等の開催

- 各学校で、企業関係者を講師として招いて就労ネットワーク会議等を開催し、各地域の企業のニーズを把握するとともに、企業とのネットワークの拡充を図り、生徒の地元での就職率の向上を目指した。
- 就労ネットワーク会議及び研修会の開催（各学校 年2回）

4 研究の成果

(1) 就労支援コーディネーターの配置における成果

- ・ モデル校となる鹿児島高等特別支援学校に、就労支援コーディネーターを配置し、産業現場等における実習先及び就労先等の職場開拓を県内全域で行った。訪問した事業所や労働関係機関等は333か所であり、職場情報個数は359件であった。事業所等を訪問し、モデル校及び関係する特別支援学校の生徒の、就労に係る意欲や能力の現状を説明することで、企業関係者等の特別支援学校生徒に対する理解を深めることができた。
- ・ 職場開拓等に係る情報及び資料等については、モデル校の教員及び生徒・保護者に随時、提供を行い、教員の進路指導に係るスキルと生徒・保護者の就職への意欲を向上させることができた。また、就労支援コーディネーターの活動報告書を他の特別支援学校にも提供することで、各特別支援学校でも訪問事業所の職場情報を参考にした進路指導を行い、本県特別支援学校全体の職業教育の充実につなげることができた。
- ・ 新規高卒者就職支援担当者連絡会を通して、県立高等学校7校に配置しているキャリアカウンセラーや、各地区の公共職業安定所の高卒ジョブサポーターと、支援の必要な生徒に関する情報交換を行い、進路指導に係る具体的な支援方法を検討することで、高等学校におけるキャリア教育等の充実に資することができた。

(2) 特別支援学校技能検定の実施における成果

- ・ 昨年度に引き続き、清掃部門の特別支援学校技能検定を平成28年12月と平成29年1月に実施した。県内の特別支援学校11校から高等部生徒55人が受検した（昨年度は、平成28年1月に実施し、県内7校から28人が受検した）。技能検定を受検した生徒に対して、受検の効果を調査したところ、全体の98.2%が「技能検定は、生徒に十分効果がみられる、やや効果がみられる」との回答であった。「級位を認定されたことが自信につながり、次の目標を掲げて取り組むなど、学習に前向きな姿勢がみられるようになった」、「検定を通して、人前に出ることへの不安や緊張感が減り、学校行事でも様々なことに挑戦するようになった」、「検定を通して自信が付き、卒業後の進路先として清掃関係の仕事に就きたいという思いが強くなった」など、具体的な効果も多数報告されており、特別支援学校技能検定の実施は、生徒の職業自立に向けた意欲や能力の向上につながったと考えている。
- ・ 特別支援学校技能検定の紹介パンフレットを作成し、100社ほどの県内企業及び各特別支援学校の関係企業関係者へ配付を行った。また、技能検定当日には、企業関係者に受検する生徒の様子を参観してもらう機会を設けた。特別支援学校生徒の就労に係る意欲や能力の現状について、企業関係者の理解を深めることは、企業の雇用促進につながり、特別支援学校の生徒の就職率の向上に寄与することができた。

(3) 特別支援学校就労ネットワーク会議等の開催における成果

- ・ 昨年度に引き続き、企業関係者等を招いた就労ネットワーク会議や研修会を各特別支援学校で開催した。就労ネットワーク会議の開催総数は17回、研修会の開催総数は29回であり、各校への外部関係者の参加人数は、延べ281人であった。就労ネットワーク会議等の開催回数及び外部関係者の参加人数は、いずれも昨年度より増加しており、各校のニーズが高まっている。
- ・ 各校においては、地域の企業のニーズを把握することで、地元企業等とのネットワークを構築することができた。また、就労に関する情報を小・中学部の段階から共有することで、小・中学部の段階からの一貫したキャリア教育・職業教育の充実につなげることができた。

5 課題と今後の方策

(1) 就労支援コーディネーターについて

- ・ 昨年度に引き続き、常時、広範囲に渡り産業現場等における実習先及び就労先等の職場開拓を行い、生徒一人一人のニーズに応じた就労に関する情報や資料等を収集することができた。
- ・ 国の委託事業の終了に伴い、来年度以降は、モデル校への就労支援コーディネーターの配置は行わないが、今後は、各特別支援学校進路指導担当者の連携の下、モデル校及び各校で収集した職場情報等を共有し進路指導を行うことで、本県特別支援学校全体の職業教育の充実に努めたい。

(2) 特別支援学校技能検定について

- ・ 県内の特別支援学校から、より多くの高等部の生徒が技能検定を受検できるように、日程等を工夫する必要がある。今年度の清掃部門の技能検定では、ビギナー・チャレンジコースとプロフェッショナルコースに分けて年2回実施した。来年度は、離島の特別支援学校高等部の生徒も技能検定を受検できるように、種子島や奄美大島での技能検定の実施に向けて、会場及び日程の検討を行いたい。
- ・ 様々な障害種の生徒が技能検定を受検できるように、清掃部門に加え、新たな部門を設定する必要がある。今年度は、特別支援学校技能検定検討委員会専門部会において、喫茶サービス部門の検定内容を検討するとともに、技能検定テキストの編集を行った。来年度は、喫茶サービス部門に関する技能検定講習会及びプレ大会を実施する予定であり、平成30年度からの清掃及び喫茶サービスの2部門の技能検定の実施につなげたい。
- ・ 特別支援学校技能検定は、「お客様」に清潔かつ安全にサービスを提供するという企業側の視点で評価項目が設定され、審査員（企業関係者）の客観的な評価を基に、級位の認定が行われている。この特長を活かし、生徒の実態に合わせて、各特別支援学校の様々な教育活動に技能検定の作業内容や配慮事項を取り入れる必要があると考えている。各校の管理職、進路指導担当者が集まる機会を通じて、技能検定のねらい等を説明し、今後の更なる充実を図りたい。

(3) 特別支援学校就労ネットワーク会議等について

- ・ 就労ネットワーク会議等の開催回数や企業など外部関係者等の参加人数は、いずれも昨年度より増加しているが、学校の位置する地域間で大きな差が生じている状況がある。
- ・ 今後、特別支援学校の管理職、進路指導担当者が集まる機会を通じて、各校の就労ネットワーク会議や研修会の状況・内容を紹介し、学校間で情報を共有することで、各校の更なるネットワーク会議等の充実を図りたい。また、各地域の企業等への理解・啓発を進めることで、キャリア教育の充実と特別支援学校高等部の生徒の就職率の向上につなげたい。